

## 平成20年度 事業報告

主任研究員 大田浩右  
主任研究員 堀 忠雄  
主任研究員 大田章子

### ◎研究部門

平成20年度は、平成19年度に続き、睡眠障害研究、脳血管障害研究、介護予防研究の3分野で事業を開始した。下半期からは、財団の運営状況も鑑み、事業の見直しを行った。介護予防研究は平成20年度までで終了とし、平成21年度からは、睡眠障害研究を主に事業を行うこととした。

#### <睡眠研究グループ>

明神館睡眠研究所では、堀忠雄所長の指導の下、睡眠時無呼吸症候群の治療、枕やベッド周りなどの睡眠環境のカウンセリングといった事業を実施した。終夜ポリグラフ（PSG）、持続的陽圧喚起（CPAP）などの検査結果についてもデータベース化し、成果を学会等で発表している。

また、高齢者の睡眠実態に関するアンケート調査を実施した。調査内容は、睡眠時間、不眠の有無、いびきの有無などである。アンケートは府中市老人大学等で配布し、約100名の回答を得た。アンケート結果については、現在分析中であるが、感触としてかなりの割合で不眠に悩む高齢者が存在すると考えられる。分析の結果は近く学会等で発表する予定である。

平成18年より開催している福山睡眠研究会も4月に第16回、9月に第17回を開催した。特に第17回は福山市の歯科医師と歯科技工士を招き、口腔内装置の講習会という内容にし、好評を得た。大田記念病院に「不眠相談窓口」を設置し、不眠に悩む患者さん約361名への相談を受けた。平成20年度後半からは堀所長によるカウンセリングも始めている。また、当財団職員をはじめ、明神館脳神経外科職員に睡眠障害に関する勉強会を行い、職員挙げての知識向上に励んだ。（睡眠研究会、勉強会一覧別添）

#### <脳卒中・血管内治療研究グループ>

脳卒中・血管内治療研究グループについては、昨年に引き続き「脳卒中データバンク」を主としたデータベースを用いた臨床研究や、血管内治療成績について積極的に学会等で発表した。特に脳卒中研究では、脳神経センター大田記念病院医師らと協同で、各種学会において多数演題を発表することができ、実りの多い一年となった。

#### <介護予防研究グループ>

昨年に引き続き、高齢者や疾病を持つ対象に運動指導を実施した。特に糖尿病をもつ対象22名について、個別の運動指導がヘモグロビンA1Cの低下につながるといった結果がえられ、大田記念病院佐藤慎太郎医師と共同で、臨床スポーツ医学会で発表した。

また、福山市老人大学での高齢者体力測定の結果をもとに作成した論文が、日本老年医学会の英文国際雑誌である Geriatrics and Gerontology International に掲載された。

## ◎助成部門

＜高齢者保健医療福祉助成事業＞

研究委託として、以下の団体（個人）に対する助成を行った。

- ・ 滋賀大学睡眠講座 200,000 円
- ・ 広島大学大学院 脳神経内科学 大槻俊輔先生  
「大田記念病院研修時代に脳梗塞急性期の臨床上疑問を感じた病態生理を解決する研究」 300,000 円
- ・ 第 24 回日本脳神経血管内治療学会  
名古屋大学大学院 脳血管内治療学 宮地茂先生  
「脳動脈瘤に対するコイル塞栓術におけるコイル挿入力の光学的センサーによる測定と安全性についての検討」 100,000 円

## ◎市民健康啓発事業

「講師派遣業」として、府中市老人大学において、高齢者を対象とした睡眠衛生啓蒙に関する講座を実施した。不眠など睡眠障害に悩む高齢者は予想以上に多く、参加人数 350 名と、大変盛況であった。また、6 月、11 月、3 月には「市民公開講座」を開催した。広報による啓蒙活動も継続中である。市民健康啓発事業の詳しい内容、参加人数、様子などについては別冊資料としてまとめている。

## ◎学会発表

- 畑野展子, 前田直美, 守岡彩, 大島恵美, 森美幸, 三嶋邦恵, 大田浩右  
「ムズムズ脚症候群で全身型を疑った 1 症例」, 第 15 回福山医学祭, 2008
- 大島恵美, 前田直美, 守岡彩, 森美幸, 畑野展子, 三嶋邦恵, 堀忠雄, 大田浩右  
「反復睡眠潜時検査 MLST 検査の留意点」, 第 15 回福山医学祭, 2008
- 佐藤慎太郎, 藤川康典, 松崎主税, 大田章子, 大田泰正  
「生活習慣病患者に対するメディカルフィットネスを利用した教育入院の有効性について」日本臨床スポーツ医学会誌 16 巻 4 号 PageS173 (2008. 10)
- 西垣昌和, 大田章子, 藤川康典, 下村董, 数間恵子  
「2 型糖尿病患者の子に対する生活習慣改善プログラムの評価。」糖尿病, 51 巻 Suppl. 1 PageS-146 (2008. 04)
- 村上実和子, 原山加奈, 大田章子, 弓手都  
「当院における迷惑電話の実態」, 第 15 回福山医学祭, 2008
- 竹田育子, 高松和弘, 高宮資宜, 松島勇人, 高橋幸治, 福嶋朋子, 大田泰正, 後藤勝弥 「脳梗塞急性期における糖尿病患者の血糖コントロール」第 34 回日本脳卒中学会総会, 2009
- 福嶋朋子, 大田泰正, 後藤勝弥, 大田浩右  
「急性期脳卒中患者における「早期来院」の認識について～第 2 報～」  
第 34 回日本脳卒中学会総会, 2009
- 大隣辰哉, 西原伸治, 大田泰正, 小山素麿, 福嶋朋子

「頸髄症における重心動揺検査の意義」：日本脳神経外科学会総会 CD-ROM 抄録集(1347-9040) 67 回 Page2J-03-P30-02(2008. 10)

●福嶋朋子, 大田浩右, 高松和弘, 大田泰正

「急性期脳卒中患者における早期来院の認識について」脳卒中(0912-0726) 30 巻 2 号 Page418(2008. 03)

●池上聡美, 高松和弘, 大田泰正, 高橋幸治, 太田康之, 竹田育子, 後藤勝哉, 福嶋朋子

「当院での t-PA 症例の慎重投与項目、投与までの時間と転帰について」脳卒中(0912-0726) 30 巻 2 号 Page275(2008. 03) &#160

●太田康之, 高松和弘, 池上聡美, 竹田育子, 福嶋朋子, 大田泰正, 後藤勝弥, 大田浩右

「急性期ラクナ梗塞におけるエダラボンの有用性」脳卒中 0912-0726) 30 巻 2 号 Page260(2008. 03)

●佐藤倫由, 大田慎三, 小埜聡司, 中崎清之, 田中康恵, 佐能昭, 松下珠美, 後藤勝彌, 大田浩右

「動脈瘤に対する開頭クリッピング術の重要性 脳血管内治療 first 時代を迎えて」日本脳神経外科学会総会 CD-ROM 抄録集(1347-9040) 67 回 Page3J-05-P82-07(2008. 10)

●大田慎三, 小埜聡司, 田中康恵, 佐藤倫由, 中崎清之, 佐能昭, 中垣博之, 松下珠美, 大田泰正, 後藤勝彌

「未破裂脳動脈瘤に対する脳血管内治療の有効性 当院における脳動脈瘤に対する脳血管内治療の現状から」JNET: Journal of Neuroendovascular Therapy

●知禿史郎, 土田和幸, 大田慎三, 佐藤倫由, 小埜聡司, 中崎清之, 田中康恵, 佐能昭, 大田浩右

「Alpha coma の状態より回復がみられた重症くも膜下出血の 1 例」脳卒中(0912-0726) 30 巻 2 号 Page279(2008. 03)

#### 論文・報告書：

●Hagiwara A, Ito N, Sawai K, Kazuma K. Validity and reliability of Physical Activity Scale for the Elderly (PASE) in Japanese elderly people. Geriatrics and Gerontology International. 2008 ; 8(3):143-51.

●Ohta Y, Takamatsu K, Fukushima T, Ikegami S, Takeda I, Ota T, Goto K, Abe K Efficacy of the free radical scavenger, edaravone, for motor palsy of acute lacunar infarction. Intern Med. 2009;48(8):593-6. Epub 2009 Apr 15.